

SHOW HEY シネマルーム

★★★

フォーチュンクッキー (FREMONT)

2023年/アメリカ映画
配給: ミモザフィルムズ/91分

2025 (令和7) 年7月3日鑑賞

テアトル梅田

Data

2025-59

監督: パパ・ジャハリ

脚本: カロリーナ・カヴァリ、パパ・ジャハリ

出演: アナイタ・ワリ・ザダ/グレッグ・ターキントン/ジェレミー・アレン・ホワイト

👁️👁️ みどころ

私は「ヘビーローテーション」や「フォーチュンクッキー」の言葉を、女性アイドルグループAKB48のヒット曲から知ったが、その正確な意味は？原題を『FREMONT』とする本作の邦題がなぜ『フォーチュンクッキー』に？

アフガニスタンからの難民女性ドニアを主人公とする本作前半だけではそれが全然わからず、眠気を催す映画だが、後半からのロードムービーになると、奇妙なストーリー展開にも俄然活気が！

もっとも、フォーチュンクッキーの中に入れるおみくじへの電話番号の書き込みは職務違反！したがって、本作の真似をするのはダメだが、人生の閉塞感を打ち破り、運のいたずらの勝者となるためには、時としてこんな冒険が必要かも・・・？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■フォーチュンクッキーの意味を知ってる？■□■

女性アイドルグループAKB48が歌った「ヘビーローテーション」が大ヒットしたのは2010年頃。私も同曲をカラオケでよく歌っていたが、その直後に大ヒットしたのが「恋するフォーチュンクッキー」(13年)だ。「ヘビーローテーション」とは、本来、ラジオなどで頻繁に掛けられる曲のことを意味する言葉だが、なぜあのヒット曲のタイトルが「ヘビーローテーション」に？そしてまた、「恋するフォーチュンクッキー」を歌っていた若者たちのどれくらいが「フォーチュンクッキー」の意味を知っていたの？もっとも、かく言う私も「フォーチュンクッキー」ってナニ？と聞かれると、きちんと答えることはできなかったが・・・。

そこで Wikipedia を調べてみると、「フォーチュン・クッキーまたはおみくじクッキー (fortune cookie) とは、その中に運勢が表記されている紙片 (おみくじ) が入っている菓

子である。」「アメリカ合衆国・カナダの中華料理店において食後に提供されることが多い。」「中国本土では見られなかった習慣であることから、日本の江戸時代に誕生し、日本で流通していた菓子が日系移民によってアメリカに持ち込まれたものの、第二次大戦時の強制収容によって日系移民の店が姿を消したことから、中国人経営の店で引き継がれ、アメリカ全土に広まったとする説が有力である。」「今日ではアメリカ文化のひとつと言える。」と解説されている。なるほど、なるほど。

近時、武田鉄矢が司会する「昭和は輝いていた」や「中山秀征の有楽町で逢いま SHOW♪」等の番組で「昭和歌謡」が特集され人気を呼んでいるが、「昭和歌謡」の共通点は歌詞に重きが置かれていること。そのことを逆に言えば、私たち団塊世代は、AKB48をはじめとするアイドルグループのヒット曲の歌詞には何の意味も、何の魅力も感じていないということだ。そのため、AKB48のヒット曲「ヘビーローテーション」も「恋するフォーチュンクッキー」の歌詞を私が全く思い出すことができないのも、「フォーチュンクッキー」の意味を全く知らなかったのもむしろ当然・・・？

■□■原題は『Fremont』！その意味は？主人公は？■□■

本作の邦題は『フォーチュンクッキー』だが、原題は『Fremont』。これは実在するアメリカの地名らしいが、そんな地名を知っている日本人は1人もいないはず。だって「Fremont」はアフガニスタンの難民が多く暮らす町らしいから。

他方、本作の主人公は、現在はカリフォルニア州フリーモントのチャイナタウンにあるフォーチュンクッキー工場で働いている女性ドニア（アナイタ・ワリ・ザダ）。彼女はタリバン復権の際に命からがらアメリカに逃れてきたらしい。なるほど、なるほど、だから、本作の原題は『Fremont』に・・・。

■□■ジム・ジャームッシュやアキ・カウリスマキの作品を彷彿？■□■

本作のチラシには、「フォーチュンクッキーが運んでくる幸せの予感・・・？」「甘くてほろ苦い、ジム・ジャームッシュにインスパイアされたインディーズ映画」の見出しが躍っている。しかし、ジム・ジャームッシュって一体誰？そこで本文を読むと、そこには次のように書かれている。すなわち、

フォーチュンクッキーをきっかけに、孤独な女性が新たな一步を踏み出す姿をオブビートなユーモアを交えて描いた本作は、ジム・ジャームッシュやアキ・カウリスマキの作品を彷彿とさせると話題を呼び、「アメリカのインディペンデント映画を刷新した」(Los Angeles Times) と、サンダンス映画祭など世界の映画祭で絶賛された。

しかし、ジム・ジャームッシュ（監督）やアキ・カウリスマキ（監督）を知っている人は一体どれくらいいるの？また、本作を観て、「ジム・ジャームッシュやアキ・カウリスマキの作品を彷彿とさせる」と感じる人は一体どれくらいいるの？チラシのこの宣伝文句は私には不愉快だ。

もっとも、そんな宣伝文句につられたのか（？）、映画サイト「そんなには褒めないよ。

映画評」では次のとおり書かれていた。すなわち、

日本の公式サイトには、「ジム・ジャームッシュやアキ・カウリスマキの作品を彷彿とさせる」とある映画で、内容はアフガニスタン難民の女性ドニアの孤独感と罪悪感と、そしてフォーチュンクッキーを介してちょっとだけしあわせの予感を感じさせる出会いのある映画です。

確かに、上のキービジュアルもそうですがカットの構図やシーン構成にはアキ・カウリスマキ監督っぽさがあります。ただ、ジム・ジャームッシュ監督に関しては初期の頃のモノクロ映像のインディーズっぽさという点では共通項がありますが、ジム・ジャームッシュ監督の映画はもっと動きがありますので印象は違います。

なるほど、なるほど。このサイトの執筆者はジム・ジャームッシュ監督やアキ・カウリスマキ監督にすごく詳しくそうだから、すごい。それに比べると、私はアキ・カウリスマキの名前を少し知っているだけで、ジム・ジャームッシュの名前は全く知らないから、「本作がジム・ジャームッシュにインスパイアされた」とか、「ジム・ジャームッシュを彷彿とさせる作品」か否かについては、ノーコメント！

■□■同情の余地はあるが、電話番号の書き込みは職務違反！■□■

本作のチラシに「フォーチュンクッキーをきっかけに、孤独な女性が新たな一歩を踏み出す姿をオフビートなユーモアを交えて描いた」と書かれているのは、母国アフガニスタンの米軍基地で通訳として働いていた時の経験から慢性的な不眠症に悩まされていたドニアが、ある日、クッキーのメッセージを書く仕事を任される中で、新たな出会いを求めてその中の1つに自分の電話番号を書いたものをこっそり紛れ込ませるところからだ。すると間もなく一人の男性から会いたいとメッセージが届いたから、ラッキー！！

ドニアの行為は、スマホ全盛時代の今風に言えば、出会い系サイトに登録したところ返事が来たようなものだが、その当否は？スマホ全盛時代であれば、出会い系サイトに自分の電話番号を登録するのは自由だが、ドニアがフォーチュンクッキーの中に自分の電話番号を書いて紛れ込ませた行為は、同情の余地はあるものの、明らかに職務違反！

■□■後半はロードムービーに！それは一体なぜ？■□■

アフガニスタンの基地には3人の通訳がいたが、脱出できたのはドニア1人だけだったこと、自分が脱出したことでアフガニスタンではドニアの家族が裏切り者扱いされていること等は、ドニアがセラピーを受けているアンソニー医師（グレッグ・ターキントン）との語りの中で明らかにされていくので、それに注目！アフガニスタンからアメリカへの難民ながらフォーチュンクッキー工場で真面目に働いているドニアの姿は一見前向きで元気そうだが、その心の中は夜もロクロク眠れず、セラピーに通わなければならないほどズタズタにされていたわけだ。しかし、フォーチュンクッキーに入れるおみくじに自分の電話番号を書いた結果として、「陶器店で働いているので来てほしい」とのメッセージが入ったから、首尾は上々・・・？

もっとも、そこには、「その際、鹿 (Deer) を訪ねてほしい」と書かれてあったから、アレレ・・・？その意味は一体ナニ？そして、何よりも、これを書いたのは一体ダレ？こんなイタズラ (?) に巻き込まれたらヤバイのでは？行くべきか、行かざるべきか迷ったのは当然だが、同僚のジョアンナに後押しされたドニアは、思い切って車に乗り込み、目的地の陶器店へ向かうことに。そのため、本作後半は前半とは全然雰囲気異なるロードムービーになっていくが、その展開は？

■□■人生は運のいたずら！？ドニアの幸せは？■□■

本作前半はアフガニスタンからの難民だという若い女性・ドニアの内面の悩みがじわじわとスクリーンを圧倒していくため、“しんどい感”が強い。しかし、後半からのロードムービーの展開になると、ドニアの割り切りや前向きの姿勢に勢いが出てくる感がある。さらに、本作が奇妙に面白いのは、ドニアと自動車整備士の男ダニエル (ジェレミー・アレン・ホワイト) との旅の途中での出会いだ。ドニアが若いけれどもちょっと変わった女の子なら、中年男のダニエルはそれ以上に奇妙な存在感を発揮するので、そんな 2 人の会話は当然ごちない上、噛み合ったものは少ない。しかし、それでもこの 2 人には、何か共通点がありそうところが本作のミソだ。

さらに、あっと驚くのは、本作がその後、鹿 (の置物) の物語を見事に (それなりの説得力を持って) 完結させること、“目的地”に到着して鹿の置物を受け取ったドニアが、帰り道、再びダニエルの店に立ち寄ったのは一体なぜ？そして、そこで一緒にコーヒーを飲むシークエンスの意味は？電話番号が書かれたおみくじが入ったフォーチュンクッキーは、果たしてドニアに対して、本当の幸せを招き込むのだろうか？

それが脚本としてどこまで成功しているのか、また物語としての整合性をどこまで保っているのかは、人によって解釈が分かれるだろうが、さまざまなネタバレ情報を読むと、おおむね好評のようだ。もっとも、「本作がジム・ジャームッシュ監督やアキ・カウリスマキ監督を彷彿させる」との解釈に納得できない私は、分かったようで分からない、そして分からないようで分かったような本作全体の脚本にイマイチ納得できないため、結論として本作は星 3 つに！

2025 (令和 7) 年 7 月 7 日記